

ぐるぐる回る大いなる意識、日の出から日の入りまで

グルマーイの誕生日のお祝いの報告

2018 年 6 月 24 日

シュリー・ムクターナンダ・アーシュラム

第 5 部

2018 年のグルマーイの誕生日のお祝いに参加した人たちより

幸せにな리なさい

私たちは皆シュリー・ニーラーヤに集まり、固唾をのんで待っていました。今にも、グルマーイがセレブレーション・サツァングに到着するでしょう。

ホールは、このお祝いのために美しく飾り付けられていました。グルマーイの椅子を囲む大きな花器は、日の出のような色 ——ピンク色、サンゴ色、そして黄金色が混じった白—— のバラでいっぱいでした。バーバ・ムクターナンダと女神マハーラクシュミーのプージャの祭壇は、それぞれの画像が白いユリとピンク色のバラで作られた花輪で飾られていました。そして各祭壇の上にはローズクォーツ、果物が盛られたボウル、さらに多くの花が豊かに供えられていました。それらの花は、世界中の信奉者がグルマーイの誕生日のためにささげたものです。それらは世界中のシッダ・ヨーガのサンガムの寛大さでホールを満たしました。

これらの環境、鮮やかな色ときらめく美しさは、私たち参加者がお祝いのために身に着けていたものによって完全なものになりました。私たちは自分の最高の服装 —— 青、緑、黄金色、深紅色、あなたが思い付く限りのあらゆる色のサーリー、ドレス、クルタ —— をしていました。

そして、その時が来ました。シュリー・ニーラーヤのすぐ外のニディ・チョークで、グルマーイの声が聞こえました。私たちは全員立ち上がり、ごく自然にホールの入り口の方を向きました。

グルマーイがシュリー・ニーラーヤの敷居をまたいだ時に、私たちは熱狂的に歓迎しました。「お誕生日おめでとうございます！」と、みんなで叫びました。私たちはとてもわくわくしていました。グルマーイの誕生日です！

グルマーイはホールの正面に続く中央の通路に向かう前に、マハーラクシュミーとバーバ・ムクターナダのプージャの祭壇の前でちょっと立ち止まりました。グルマーイが席に着くと、私たちも席に着きました。

スワーミ・イーシュワラーナダが、この催しに講話をするために演台に向かいました。彼はまずグルマーイに幸せな誕生日を願い、それから私たちに向かって、「皆さん、幸せですか」と聞きました。私たち皆は、「はい！」とすぐに答えました。

グルマーイはスワーミ・ジを見て、もし皆が「いいえ」と答えたら、彼はどうしたかと聞きました。スワーミ・イーシュワラーナダは面食らって、言葉を失いました。彼が続けるのを助けようと、グルマーイは彼が皆に再び質問することを提案しました。グルマーイは私たち皆に、今度は否定的に答えるようにいたずらっぽく言いました。

スワミ・ジが再び、「皆さん、幸せですか」と聞きました。そして、私たちは待ち構えたように元気に、「いいえ！」と答えました。スワミ・ジは笑って、こう答えました。「あなたたちに一つアドバイスがあります。幸せになりなさい！ なぜなら、今日はとても特別な日ですから！」

私たちから拍手が湧き起こりました。

それからグルマーイは、高名なジャズピアニストのケニー・ワーナーに、幸せになることについての歌を弾くようにと招きました。名手ケニーの指は、キーボードの上ですぐに踊り始めました。彼の滑らかで美しい声はホール中に広がりました。私たちは、その声が水晶やダイヤモンドのように空中で渦巻ききらめくのを実際に絵に描けるようでした。

ある訪問セーヴァイトが思い起こしました。

ケニー・ワーナーがグルマーイの要請にためらうことなく応じた時、私は完全な至福と自由を体験しました。

あるスタッフメンバーが話しました。

私はケニーの音楽が、グルマーイの祝福と愛を宇宙全体に送っていると感じました。

音楽が終わると、グルマーイは、「あなたたちは幸せになりましたね！」と言いました。私たちは皆、笑って同意しました。グルマーイはスワミ・イーシュワラーナンダを招き、この最も楽しいやりとりの始まりとなった質問を、もう一度するように促しました。

スワミ・ジは嬉しそうに声高に笑い、私たちに「幸せ？」と尋ねました。

「はい！」と、私たちは力強く答えました。

スワミ・イーシュワラーナンダは講話を始める準備として、まず再び自己紹介をしました。そしてグルマリーが、すべてのスワミたちを紹介するようにスワミ・ジを促しました。彼女は自分の誕生日に、シッダ・ヨーガのスワミたちに感謝したいのだと説明しました。

そこでスワミ・ジは彼らを紹介し始め、スワミたちは謙虚さと感謝と共に一人一人立ち上がり、この謝意を受け取りました。スワミ・アカンダーナンダ、スワミ・アナンターナンダ、スワミ・シャーントーナンダ、スワミ・ヴァースデーヴァーナンダ、スワミ・アサンガーナンダ、スワミ・アラクシャーナンダ、スワミ・インディラーナンダ、スワミ・ウメーシャーナンダ、スワミ・アプールヴァーナンダ。

スワミ・イーシュワラーナンダは、他のシッダ・ヨーガ・アーシュラムにいるスワミたちにも感謝しました。スワミ・クリッパーナンダ、スワミ・シッダーナンダ、スワミ・シャクターナンダは、オークランドにいました。スワミ・イーシュワラーナンダがもう一人のスワミの名前をまさに挙げようとした時に、私たち皆が、「グルデーヴ・シッダ・ピートウのスワミ・セーヴァーナンダ！」と叫びました。スワミ・イーシュワラーナンダは笑いながら、「もちろん、私は彼の名前を挙げるつもりでいました」と言いました。

この感謝の言葉の後、スワミ・イーシュワラーナンダは 2018 年のグルマリーのメッセージの主題、「サツァング」について、素晴らしい講話をしました。前日に私たち皆で誕生日のお祝いのスケジュールについての意見を提案してから、スワミ・ジはこの講話を一晩で準備し——そしてそれを極めて軽々と遂行したのです。

これが、スワミ・ジの珠玉の講話の一部です。

『シヴァ・スートラ』は、悟りを得た師を「ダーナム・アートマ・ニヤーナム」と言っています。そのような存在は、「絶え間なく大いなる自己の知識を授ける」、つまり真理の知識を授けます。ですから、真理を知る存在の前に来る時、あなたはサツァングを持っているのであり、「真理の仲間」となっているのです。

40 年以上にわたって、私はシッダ・ヨーガの道でセーヴァーをささげてきました。そして、毎日グルマーイがサツァングを与え続けるのを見てきました。サツァングの力はクンダリーニー・エネルギーを呼び覚まし、人々に真理の体験を与えます。

グルマーイが世界の実にさまざまな場所で行った教えの旅でのサツァングや、衛星放送を通じたグローバル・サツァングなど、すべてのサツァングを私は思い出します。私たちは、シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールでのライブ配信のサツァングや、シッダ・ヨーガの道のウェブサイト上でビデオや他のさまざまな形での教えを得てきました。実際、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトを通して、毎日毎晩サツァングを持つことが可能です。

グルマーイとのあらゆるやりとりはサツァングです。

スワミ・ジは続けて、グルマーイがどのように教えるかを示す二つの美しい逸話を紹介しました。

これが最初の話です。

先日、何年もグルマーイに会っていなかったシッダ・ヨーギがグルマーイにあいさつし、10 年前に大企業の社長としての重要な地位から引退した後は、誰も自分を覚えていないと話しました。

グルマーイは彼女を優しく見て、強い熱意をもって大きな声で言いました。「私たちは、あなたを素晴らしい瞑想家として覚えていますよ。私たちは、あなたを慈善家として覚えていますよ。私たちは、あなたを親切な人として覚えていますよ。本当に、多くの人々が、あなたがどのように皆を支援してきたかを話してきました」

グルマーイがそう言うと、その女性はグルマーイがいかに関心の注意を自分自身の善良さに、彼女が本当は誰かという真実に振り向かせようとしているかを理解し始め、にっこりとほほ笑みました。それは認識の瞬間でした。グルマーイの言葉は、その女性を自分自身の真の自己の仲間になること、つまりサツァングへと導いたのです。

それから、スワミ・ジは二つ目の話をしました。

昨日、シュリー・ニーラーヤの昼のサツァングで赤ちゃんが泣いていて、父親が彼を抱き上げ、腕の中であやして落ち着かせようとしていました。しばらくしてグルマーイは、赤ちゃんはおなかがすいているのではないかと母親に尋ねました。母親はうなずきました。

それは優しいやりとりで、実用的な結果をもたらしました。おなかがいっぱいになった後、赤ちゃんは満面の笑みを浮かべました。

スワミ・ジは続けて言いました。

サツァングに、私たちは皆育まれます。真理への私たちの切なる思い、神の体験への私たちの切なる思い、私たちは何者なのか知りたいという私たちの切なる思いが満たされるのです。

訪問セーブアイトは後に話しました。

スワーミ・ジが話したこれらの逸話を聞いて、真の私は何者かということ、万物の中の神聖さを、私に途切れることなく思い出させるシッダ・グルがいることへの尽きることのない感謝の源を体験しました。この知識、これを覚えていることは、慈愛を自然に引き起こします。

誰もが、グルマーイのサツツァングについてのスワーミ・ジの話を受け止めました。私たちは、シュリー・グルの導きの下でシャクティーパートを受け取り、真理を体験することの意味について振り返ったのです。

それから、グルマーイは私たちに、彼女に代わってあることをするように頼みました…



© 2018 SYDA Foundation®.著作権所有。

続く…